

すべての設問に関して、句読点は字数に含みます。

一、次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。

わたしたちのまわりには、海のおくりものがいっぱいです。魚やこんぶ、それに塩。それだけでも、なんとゆたかなおくりものでしょう。なんとさまざまな食品に、海のA幸がしのびこんでいることでしょう。

塩は、人間や動物が生きていくのに、なくてはならない物質です。水や空気とおなじほどにたいせつです。

毎日の食卓をながめてみましょう。

おみそ汁にもチャーハンにも、パンやスナックなどのおやつにも、わたしたちが口にするほとんどすべての食品に、海の産物がつかわれています。

「たまごにも、海がはいっていますよ。」と、ニワトリをかつている農家の子がいました。

「牛も、海となかよしですよ。」と、牛をかつている農家の子がいました。

おいしいたまごを産むために、ニワトリも、魚の骨や貝がらを食べています。おいしい肉をつくるため、牛や豚のえさの中にも、イワシやエビがまじっています。

お米や野菜やB果物は、ゆたかな土にそだちます。そのゆたかな土をつくるため、肥料にも魚や貝や海藻が大活躍をしています。

このように、海は大地もやしなっているのです。

海はまた、ちがったおくりもので、わたしたちを助けます。

「波や潮」という、水の力のおくりものです。

それと一つのもわたしたちの生活は、外国からのCユニウ品にたよっています。

1 石油を考えてみましょう。電気やガス、ガソリンなど、くらしに欠かせないエネルギーは、ほとんど石油にたよっていますね。その石油からプラスチックも化学せんいも、さまざまな薬品もつくられます。衣類にも洗剤にも化粧品にも、石油はつかわれています。

石油ばかりではありません。鉄や亜鉛などの鉱物も、木材も、食料も、日本は外国から大量にユニウしています。それらはどのようにして運ばれてくるのでしょうか。船に積まれ、海の波に乗り、水の力を借りながら、日本の港へ運ばれてきます。自動車や鉄道や飛行機では、とても考えられないような大きな荷物も重いものも、大量の品々も、海は水に任せ、どこまでもどこまでも運んでくれます。

ですからあなたの下着も洋服も、靴下も靴も、ノートや鉛筆、ランドセルも、テレビ、電卓、ゲーム機も、みな海の力のおかげです。

もっと大きなおくりものがありますよ。雨や雪。つまりは「水」のおくりものです。

あなたは雨が、どうしてふるのか、考えたことがありますか。

空を仰いでごらんなさい。雨はどこからふっていきるのでしょうか。月からふってくるのでしょうか、それとも火星からでしょうか。

なるほど雨は、空からふってきますね。でも、そのおおもとの水は、どこからくるので

しょうか。

雨は、海からやってきます。

海の水があたためられてDジヨウハツし、上空でE冷やされて雲になり、雨やあられや雪になって、地上に落ちてくるのです。雨は、海のおくりものです。

その雨を、森林や水田がうけとめます。その水は土にしみこみ地下水になり、やがて下流にわき出て川の水になりますね。それをダムでせきとめて、水路やパイプで引いてくる。それが水道の水、わが家のじゃくちの水ですね。

2、あなたがつかったその水は、最後はどこへ行くのでしょうか。下水道から川へ出て川の水になり、やがて海にはき出されて海の水になりますね。そして海の魚たちをやしません。その水はまたジヨウハツし、上空で冷やされて雲になり、雨や雪となって地上にふって、また川の水になり、わが家のじゃくちに運ばれてくるのです。

このように水は循環しています。ぐるぐるとまわるそんな水の旅をとおして、海は海の生きものたちと陸地の生きものたちと両方を、やしなっているのです。

そうです。海はあらゆる生命のやしない手です。そしてわたしたち人間も、陸地にすむ動物も植物も、もともとは、海のおくりものでした。

いまから三十五億年のむかし、まだ地球が若かった時代、最初の生命が海から生まれたのでした。やがて生命はふえ、進化し、長い長い年月の末に陸地に上陸します。そのようにして陸地の森林も生まれ、恐竜も生まれ、わたしたち人間も生まれてきたのでした。「母なる海」とわたしたちはよくいいます。海はすべての生命にとって、ふるさとだったのです。わたしたちが いまも海をなつかしく思ったり、海にあこがれたりするのも、きっとそのためにちがいません。

わたしはこれから、その母なる海と人間との、長い長いときあいの歴史について、日本を中心に、お話をしていきます。先祖たちがどのようにして海とたたかい、海のめぐみを受け、海の力を借りながら生きてきたか、そしていまも海辺の漁民たちがどのようにして海を守ろうとしているか、その知恵や苦心についてお話ししていきます。

それというのも、母なる海はいま、人間による破壊のために苦しんでいます。「もっとなかよくして。」と訴えているからです。

(富山和子『海は生きている』)

空を仰いで：空を見上げて

問一 二重傍線部A～Eの、漢字は読みを、カタカナは漢字を答えなさい。

問二 空欄1、2の中に入る適切な語を次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

A しかし イ つまり ウ たとえば エ では オ だから

問三 傍線部「海のおくりもの」とありますが、本文で述べられている「海のおくりもの」に当てはまらないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

A 塩 イ 靴下 ウ 火星 エ 人間

問四 傍線部 「毎日の食卓をながめてみましょう」とありますが、そのように書く筆者の目的は何ですか。最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 読者に、口にするほとんどの食品に海の産物が入っていることを気づかせる目的。
イ 読者に、牛や豚のえさの中にも海の産物が入っていることを気づかせる目的。

ウ 読者に、お米や野菜などは海の産物でつくられた土で育つことを気づかせる目的。
エ 読者に、海が人間や動物だけでなく大地もやしなっていることを気づかせる目的。

問五 傍線部 「たまごにも、海がはいっていますよ」とは、どういうことですか。本文中の言葉を用いて、三十五字以内で答えなさい。

問六 傍線部 「海の力のおかげ」とは、どういうことですか。最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 海のおかげでわたしたちの生活に必要な石油が手に入ること。
イ 海のおかげでわたしたちの生活に必要な鉱物が手に入ること。

ウ 海のおかげでわたしたちの生活に必要な品々が手に入ること。
エ 海のおかげでわたしたちの生活に必要な食料が手に入ること。

問七 傍線部 「水の旅」の内容が書かれている部分の最初と最後の五字を抜き出して答えなさい。

問八 傍線部 「いまも海をなつかしく思ったり、海にあこがれたりする」のは、なぜですか。「」ため」に続く形で本文から二十字で抜き出して答えなさい。

問九 次の各文が、本文の内容と合っていれば、異なっていれば×と答えなさい。

- 1 海の生きものはお米や野菜などをそだてる大地をつくっている。
- 2 石油はエネルギー源としてもわたしたちの生活に欠かせないものだ。
- 3 地球温暖化が進めば今よりも海があたためられ、雨の降る量が増える。
- 4 海は海の生きものたちをやしなひ、陸の生きものはやしなわぬ。
- 5 最初の生命は海で生まれ、その後陸地で生活できるように進化した。

二、次の文章は、小森真弓氏著の『きのうの少年』の一節である。主人公のアキが子ネコを数匹拾った。一匹だけを残してみんなもたれていった。その一匹は足首部分が靴下をはいているように白いの、ソックスと名付けられた。ある日、アキはソックスを連れて、友達のケイトと一緒に魚釣りに出かけた。その時に釣れた魚をケイトがソックスに食べさせようとした。この続きを読み、以下の問いに答えなさい。

チエツとケイトはA舌打ちして、魚を池にもどした。ソックスがアキの肩に上がってくる。

「くすぐったいってば」

ケイトがソックスの首をつまんで、アキからはがした。ソックスは、あわてたように手足をばたつかせ「ミー、ミー」と情けない声を出している。

「そんな 持ち方しないで」

「なんでさ。ネコはこうやって持つんだぜ。ウサギだって耳、持つじゃん」

ケイトは首を持ってぶら下げたまま、ソックスの顔を見てブツと吹き出した。

「ほんと、こいつブスだよな」

アキは□した。

「そんな言い方しないで！返して」

アキはケイトの手からソックスを取り上げた。

「自分だって、最初、笑ってたくせに」

「笑ってない」

「笑ってた」

ソックスが「ミヤン」と鳴いた。ケイトが頭をポンとたたく。

「なんでたたくの！」

「さわっただけだろ」

「たたいたじゃん」

ケイトは、あきれたようにa鼻を鳴らした。

「アホらし。なに、ムキになってんだよ」

そう言つて、さつさと竿を片づけはじめた。

「川、行こ。そいつ、家に置いてこいよ」

「連れてく」

「じゃまだろ」

「じゃまじゃないもん」

「置いてこい」

「じゃ行かない」

ケイトの動きが止まる。腕の中でソックスが、また「ミヤン」と鳴いた。

「勝手にしろ」

「アキ！」

いきなりとうさんが現れた。走ってきたみたいだ。

「帰ったら、子ネコがいなからびっくりしたよ」

意味がわからなかった。こんな時間に、どうしてとうさんは家にいたんだろう。

「四時過ぎに約束してるんだ。午前中、連絡があつて」

えっ……。

「飼い主が見つかったんだよ」

とうさんはフェンス越しに手をのぼすと、アキの腕から、ソックスを持ち上げた。ケイトがさっきしたように、首をつまんで腕に抱きとった。

「わざわざ来なくてもいいぞ」

とうさんは急いで家にもどつていった。あつという間もなかった。ソックスは、あっけなく連れていかれた。手にはまだ、ぬくもりが残っている。アキは突っ立ったままだった。急に両手が手持ちぶさたで、あわててパーカーのポケットに入れた。だけど、そこにもソックスのぬくもりが残っている。

アキはポケットの中で、手のひらを強くにぎりしめた。

「見てこいよ」

ふいに背中が声をした。いつのまにか、ケイトはもうフェンスの向こうにいた。ペダルに足をかけて、アキを見ている。空から風が降りてきた。足もとの枯れ葉が騒ぐ。遅い午後のB日差しの中、羽虫が無数に飛んでいる。アキは黙ってフェンスを越えた。

「見てこいよ」

ケイトは、もう一度言った。

「なに見んのよ」

アキはケイトをにらんだ。声がこわばっているのが、自分でもわかる。

「新しい飼主に決まってるんだろ。ちゃんとあいつを、かわいがってくれそうな人がさ」
言い終わらないうちに、ケイトはペダルを踏みこんだ。自転車は川に向かって、小径を曲がる。アキは重い足取りで、家に向かって歩き出した。

家の前に、とうさんと男の人がいた。あの人が、ソックスの飼主になる人だろうか。ちよつとCイガイな気がして、アキは近くまで行った。

男の人はソックスを抱いて、耳の後ろをなでていた。顔はまるくてメガネをかけていて、全体的な雰囲気も、どこかまるい感じがした。アキはじつとソックスを見ていた。ソックスは目をD閉じている。のどを鳴らす音が聞こえてきそうだった。男の人はアキに少し会釈すると、行ってしまった。

「よかったな。いい人がもらってくれて」

「なんで、いい人なんてわかるの」

アキはEモ Monk を言った。とうさんは聞こえなかったようで、そのまま家に入ってしまった。

なんで、いい人なんてわかるの。

アキは動かなかった。今は家に入りたくない。ふと顔を上げると、さっきの男の人がもどってくるのが見えた。忘れ物でもしたんだろうか。男の人は、アキの前で立ち止まった。明らかに何か用があるみたいだ。

(小森真弓『きのうの少年』)

笑ってない…この場面より以前に、「アキ」は「ソックス」を笑っている。

問一 二重傍線部AとEの、漢字は読みを、カタカナは漢字を答えなさい。

問二 波線部a「鼻を鳴らした」、b「手持ちぶさた」の意味として適当なものを次の中

からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

a「鼻を鳴らした」

ア 驚いた

イ 自慢した

ウ なぐさめた

エ 馬鹿にした

ア 心配であり他のことができない様子。

イ することがなくて間がもたない様子。

ウ 見ていてはらはらしている様子。

エ 急に態度を変えてしまう様子。

b「手持ちぶさた」

問三 傍線部「持ち方」について、以下の問いに答えなさい。

(1) どのような持ち方ですか。本文中の言葉を用いて、十字以内で答えなさい。

(2) この持ち方と同じ持ち方をした人を本文中から抜き出して答えなさい。

問四 傍線部「なんでたたくの！」とアキが怒った理由として最も適当なものを次のから一つ選び、記号で答えなさい。

ア ケイトのことが昔からきらいだから。

イ ソックスのことを大切にしないから。

ウ 以前に笑ったことを指摘されたから。

エ ケイトにヤキモチを焼いているから。

問五 傍線部「アキ！」は誰が言った言葉ですか。最も適当なものを次のから一つ選び、記号で答えなさい。

ア ケイト イ とうさん

ウ 男の人

エ ソックス

問六 傍線部「手のひらを強くにぎりしめた」とありますが、この時のアキの気持ちとして適当でないものを次のから一つ選び、記号で答えなさい。

ア くやしき

イ 情けなさ

ウ 喜び

エ いらだち

問七 傍線部「なに見んのよ」と、家に行くことに積極的ではなかったアキが、その後家に向かって歩き出したのはなぜですか。その理由を本文中の言葉を用いて、三十五字以内で答えなさい。

問八 空欄の中に入る適切な語を次のから一つ選び、記号で答えなさい。

ア むっと

イ ほっと

ウ あっと

エ じっと

解答

一

問一 A さち B くだもの C 輸入 D 蒸発 E ひ

問二 1 ウ 2 エ

問三 ウ

問四 ア

問五 たまごを産むためにニワトリが魚の骨や貝がらを食べているということ。(33字)

問六 ウ 海の水があゝるのです。

問七 海はすべての生命にとって、ふるさどだった

問八 1 2 3 x 4 x 5 x

二

問一 A したう B ひざ C 意外 D と E 文句

問二 a エ b イ

問三 (1) 首をつまむ持ち方。

(2) とうさん

問四 イ

問五 イ

問六 ウ

問七 新しい飼い主がソックスをかわいがってくれそうな人かどうか確かめるため。

問八 ア